



民間プールでの水泳授業の
実績と市民プール候補地は



公明党 内山 恵子

●**小中学校プールの在り方と水泳授業の現状と課題及び市民プールについて**

Q 民間プールを活用したモデル校2校の実施状況は。

A 綾北小学校では水泳授業を4回実施、そのうち着衣水泳を1回、移動は徒歩で片道約10分、綾南小学校では水泳授業を3回と座学を1回実施、移動はバスで片道約40分であり、予定どおりの時間数を実施し、授業中のけがや移動時の事故も発生していない。

Q 水泳授業後に実施したアンケート結果の内容は。

A 児童の9割から水泳授業が楽しかったと回答、保護者からも天候への懸念がないなど9割から良い評価を得

た。教員からは業務の負担軽減につながったなど総合的に良かったとの回答であった。

Q 市民プールを小学校の水泳授業の受け皿とした場合、小学校の近くが望ましいと考えるが、候補地は。

A 市民プール整備事業基本構想に記載のとおり、市域からのアクセスが想定されることから、市の中央部への建設を基本に検討していくことが望ましいと考える。

Q 小・中学校のプール槽がなくなった場合、マンホールトイレの代替水源は。

A 一般論としては、給水車や消防車両などにより、河川などからくみ上げ、給水することが考えられる。



衆議院選挙での投票用紙誤
交付に対する再発防止策は



成田 龍二

●**衆議院選挙で外国籍の市民の投票が有効票となった問題について**

Q 住所が未記入の期日前投票用請求書兼宣誓書の提出で受け付けを行い、投票用紙を交付した行為は、犯罪ほう助が成立する可能性もある事案であるが、再発防止策は。

A 今回の事案を継続的に従事職員で共有するほか、事務要領に沿った記載であることとの確認を徹底し、再発防止と信頼回復に努めていく。

Q 宣誓書だけの場合、な

りすまし防止のための本人確認を徹底し、確認ができない時は、仮投票としてはどうか。

A 身分証明書の提示は投票者に負担が生じ、身分証明書を持たない方もいることから、対策を研究していきたい。

●**不登校傾向の児童・生徒支援の現状について**

Q オンライン学習教材の11月末現在の利用状況は。

A ライセンス配布数は、小学校34、中学校63、教育支援教室15となっている。

志政あやせ 齊藤 慶吾



インターチェンジ周辺道路
の安全・渋滞対策は万全か



●**綾瀬スマートインターチェンジについて**

Q 綾瀬スマートインターチェンジの利用台数増加に伴う、周辺道路の安全対策は。また、渋滞への対策は。

A 令和3年度の開通直後から利用台数は増え続けており、インターチェンジに隣接する寺尾釜田、寺尾西、小園・早川地区の3地区では、周辺道路の安全対策が元年度に完了し、一定の効果が得られたものと捉えている。また、インターチェンジが接続する県道42号の交通量の分散のため、未整備となっている道路の整備や幹線道路の交差点改良のほか、信号サイクルも含めた調整などは、交通管

理者と連携し対応していく。

●**道の駅について**

Q 道の駅整備に向けたこれまでの取り組みと今後をどのように考えているのか。

A 道の駅整備事業は綾瀬市総合計画2030に位置付けられた取り組みとして、地域経済の活性化を目指すものであるが、地域振興策として、本市や市民にとって真に潤いや活性をもたらすものか見極めていく。今後は中心市街地エリアの活性化という広い視点で考え直し、まちづくりの将来を担う重要な施策として、財政状況を踏まえつつ、民間のノウハウを活用しながら、慎重に議論を深める必要があると考えている。

●**済制度の現状について**

Q mRNA型ワクチンの健康被害などを数値で継続的に伝えていくべきと考えるが、本市の各種予防接種健康被害救済制度の申請状況は。

A 認定が2件、非認定が1件、申請中が1件で、全てが新型コロナウイルスワクチンによる申請となっている。



普通退職者に退職理由など
の意見聴取を行っているか



日本共産党あやせ 福田久美子

●**市民のニーズに定める市職員の育成について**

Q 普通退職者の推移に関する分析や退職理由などの意見聴取は行っているのか。

A 過去3年間で毎年20人前後が離職しており、若い職員が約6割を占めている。退職理由は、体調不良や転職だが、退職に至った背景などは積極的に聞き取っていない。

Q 市の事業には、各地域の特性に沿ったものも多くあるが、市民ニーズの把握や事業見直しのタイミングを職員

はどう捉えているのか。

A 各所属により適切なタイミングで把握していると認識しており、事業の見直しは人事異動も一つのタイミングになり得ると考えている。

●**高齢者福祉の充実を図るサービス提供について**

Q 本市の在宅介護に対する傾向として、本人や介護者の在宅生活継続に係るニーズなどは把握できているか。

A 令和5年度の在宅介護実態調査では、入所や入居を検討していない方が66・3%、



12月19日、「市民ホールコンサート」が開催されました<市役所1階市民ホールにて>

議会用語の
ミニ知識

「表 決」

表決とは、議会の意思決定に議員が参加するための手段で、賛成、反対の意思表示をすることをいいます。

表決の方法には、大別すると議長が議題に関して賛成する者を起立させ、その多少を認定して行う「起立表決」と起立者の多少を認定しがたい場合に行う「投票による表決」、議長が異議の有無を諮る「簡易表決」の3つがあります。本市議会においては、通常「起立表決」と「簡易表決」が多く用いられています。

このように、議長が表決をとることを「採決」といい、表決の結果得られた議会の意思決定(例えば可決、否決、同意など)を「議決」といいます。したがって、「表決」は、議会の審議過程における最終手続になります。



市公式マスコットキャラクター「あやびい」

